

理研会報

発行日：平成27年12月11日

号数：No. 377

発行：印旛地区教育研究会理科研究部

H P : <http://rikainba.com>

メール：rikainba@yahoo.co.jp

★★

平成27年11月7日8日に千葉市の各会場で第65次千葉県教育研究集会が行われました。印旛からは夏の印教研で、中学校4部会、小学校は昨年に引き続き3部会が推薦され、浅野先生（八街北中学校）、佐久間先生（八街南中学校）、根本先生（原山小学校）、菅原先生（原小学校）の4名が研究発表を行いました。その結果小学校、中学校共にサブレポーターとして全国教研に参加することになりました。全国教研への参加は小学校、中学校共に2年連続で、印旛の理科の研究の内容だけでなく、先生方の研究に取り組む姿勢が高く評価された結果だと考えられます。

今回の理研会報では、県教研に参加した先生方からの感想等を掲載いたします。

八街市立八街北中学校

浅野 祐一 先生

11月7日、8日に県教研に印旛支部の代表として参加しました。県内各支部の代表者たちは、とても意欲的であり、研究に対して熱意と知識を備えた人たちでした。いざ、発表を聞くと、「同じ千葉県でも支部が違えば、ものの見かた・考え方がこんなにも違うのか」と、とても驚きました。一つとして同じような発表は無く、他支部の発表が終わるごとに、私の頭の中に新しい風が舞い込んでくるようでした。参加者は発表者に対し敬意を払う真摯な姿勢で向き合い、質問することで、少しでも自分の「知識の糧」にしようとしていました。休憩時間も、自分の支部の教材をワークショップ

形式で、紹介しあう光景にとっても感銘を受けました。

県教研の2日間は、とても濃密で、質の高い時間を過ごすことができました。本研究部の研究も他支部の方と一緒に議論した事で、より深みを増すことができました。県教研という場で、本研究部の研究を発表でき、とても光栄に思います。私自身の知見の幅も、確実に広げることができました。

最後に、このような貴重な機会を与えて下さった印旛支部のみなさま、本研究を続けてまとめるまでに至った八街市の研究部のみなさまに深く感謝致します。本当に有り難うございました。

印西市立原山小学校

根本 佳乃 先生

11月7、8日の2日間、県教研に参加させていただきました。

その中で印旛部会では、「実感を伴った理解学習のあり方～具体的な体験活動を重視した学習」をテーマに、4学年の「もののあたたまり方」の単元について提案をしました。

「金属のあたたまり方」では、サーモリを用いた実験を、また、「水のあたたまり方」では、児童が考えた4つの実験（氷、ろう、サーモインク、サーモテープを用いた実験）に加え、水の温度と対流の関係を示した「サーモいくら」の実験について、実物や写真を示して説明しました。

共同研究者からは、「児童の問題意識を基にした適切な教材開発である。」「児童の実態をよく把握し、児童主体（必要感）を生かした授業構成になっている。」というご意見をいただきました。一方、「子どもの疑問を引き出すために、導入の際、教材の一部を隠すことが適切であるのか。」等のご意見もいただきました。

今回の県教研を通して、児童主体の問題解決学習のあり方について、改めて考えるよい機会となりました。今後も、児童の驚きや疑問を大切に授業作りを行っていきたいと思います。

このような貴重な機会を与えてくださった印教研理科研究部会の皆様に感謝いたします。